

地域活性化へ向けた高校生の取り組み

～地域の歴史を理解するとともに多くの人へ魅力を発信～

群馬県立藤岡北高等学校 フードビジネスコース

1 研究の実施状況

(1) 研究期間 2020年7月～2021年1月

(2) 実施場所 群馬県立藤岡北高等学校
富岡製糸場
高山社跡

(3) 参加人数 群馬県立藤岡北高等学校 フードビジネスコース 3年生 9名

(4) 研究内容

藤岡北高等学校フードビジネスコースでは、平成26年から高山社跡をPRする活動に取り組んでいる。米粉パンを中心に、桑の実ジャムを使用した桑の実タルト、桑の実ティラミスなどを製造し、販売活動を行ってきた。

本研究では、「富岡製糸場と高山社跡への理解をより深めること」、「高山社跡を多くの人に知ってもらうこと」の2つを目的とした。

富岡製糸場と高山社跡へ見学に行き、ガイドから細かな説明を受けた。また、桑に関する商品を製造し、藤岡北高等学校と藤岡市情報発信センター会遊亭において販売活動を行った。

2 研究の成果

①富岡製糸場・高山社跡の見学

富岡製糸場では、ガイドの説明を受けながら製糸場内を回り、異人館や診療所や病室もあったと聞いて驚いた。ブリュナなどフランス人の指導者がおり、外国のような雰囲気を感じた。大久保利通も訪問したことがあると説明を受け、富岡製糸場が歴史の中で重要な場所、また養蚕という産業が日本にもたらした功績の大きさを学ぶことができた。

高山社跡の見学では、創始者である高山長五郎が「清温育」を生み出し、高山社を組織し、多くの門下生に教えることで日本中に高い養蚕技術を広めたと聞いた。高山長五郎は、田島弥平の「清涼育」と福島県伊達郡の「温暖育」の良いところを取り入れた「清温育」を確立し、当時、養蚕技術が低く、3回に2回は失敗する時代であり、高山長五郎も6年間失敗しながら、ようやく清温育の確立に至った。沖縄から学びに来ていたことや指導員の中には女性もおり、女性が活躍するきっかけとなったことも知ることができた。また、高山社跡ではアサギマダラという珍しい蝶が見られることも知った。2つの史跡を見学することによって、より深く養蚕やその功績を理解することができた。

②桑に関する商品の製造・販売

7月に桑の葉を使った長五郎クッキーと同じくタルト生地に桑の葉を使ったキッシュを藤岡北高等学校と藤岡市情報発信センター会遊亭の2カ所で販売した。会遊亭では、和菓子に関するアンケート調査を実施し、焼き菓子の他に和菓子の商品開発にも取り組んだ。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年参加している市内外の販売会などが軒並み中止となった状況から、校内を会場に生徒・職員に向けた販売会を2回計画した。

10月に行った販売会では、桑の葉団子、桑の葉あんみつ、桑の葉ぎょうざまん、桑の実タルト、キッシュを販売した。桑の葉団子は、桑の葉パウダーを練り込んだ団子にみたらしをかけた商品、桑の葉あんみつは、桑の葉団子と、ハロウィンの時期ということもあり、かぼちゃを練りこんだ団子、豆腐を練り込んだ団子のカラ

フルでヘルシーな商品に仕上げた。桑の葉ぎょうざまんは、生地には桑の葉パウダーを練り込み、蒸し焼きにして、ふっくらと仕上げた。すべて完売となり、味もおいしいと購入した人から評価をいただいた。また、販売所にフードビジネスコースが桑に関わる商品を製造・販売していることを一目でわかってもらえるよう、モルタル造形で置き看板を製作した。「桑キッチン」の文字を入れ、蚕、高山社跡と連想できるように製作した。

12月の販売会では、10月に販売した商品の他に、クリスマスを意識した桑スマスカップケーキ、生チョコタルトを販売した。桑スマスカップケーキは、生クリームに抹茶パウダーと桑の葉パウダーを練り込んでクリスマスツリーをモチーフにしたクリスマス限定の商品として販売した。生チョコタルトは、桑の葉パウダーを使用したタルト生地、アクセントとしてクランベリーのドライフルーツを入れ酸味を加え、砕いたクルミを混ぜ入れ食感を加えた商品に仕上げた。また、同じ世代の高校生に少しでも高山社跡に興味や関心をもってもらうため、チラシを作成し、販売会当日に配布した。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学校外での販売を通じたPR活動がなかなかできない中、校内での販売会に重点を置いて活動してきた。友人たちに研究について伝えると、「桑ってなに?」という人や高山社跡が何をしていた場所なのか知らない人がたくさんいることに気付いた。同じ高校生に少しでも商品を通じて高山社跡や桑について興味をもってもらえるよう、さまざまな商品の販売やチラシを作って配布したことによって、桑のことを聞かれることが多くなったり、養蚕や高山社跡に興味をもってもらえたと感じることができた。

③まとめ

高山社跡や富岡製糸場をより多くの年代の人に知ってもらうためには、年代を問わず親しみのある商品作りが必要だとわかった。本研究において、試行錯誤しながら多くの桑の商品を販売したことで、高山社跡や養蚕について興味や関心をもってくれた人が増えたと実感している。高校生ができることには限りがあるが、外部機関とも連携を図りながら、これからも世界遺産である高山社跡を盛り上げる活動に取り組んでいきたい。

調査結果や研究の根拠となった資料

①藤岡市HP

https://www.city.fujioka.gunma.jp/kakuka/f_bunkazai/takayamasya_ato.html

高山社跡・高山長五郎の写真引用

高山社跡の来場者数参照

②しるくるとみおか 富岡市観光HP

<http://www.tomioka-silk.jp/tomioka-silk-mill/>

富岡製糸場の来場者数参照

③群馬県藤岡市立東中学校HP

<https://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1020001>

チラシ作成時に、高山社跡の地図引用



フードビジネスコース集合写真



高山社跡見学①



高山社跡見学②



富岡製糸場見学①



富岡製糸場見学②



キッシュ



長五郎クッキー



桑の葉団子



桑の葉あんみつ



桑の葉ぎょうざまん



生チョコタルト



製造風景①



製造風景②



販売風景①



販売風景②



作成したチラシ



チラシ配布



モルタル造形で看板製作